

中山間地の活性化を研修

島根県江津市桜江町で

総務経済常任委員会

旧桜江町は少子高齢化の進行を危機的状況と捕らえ、内発的企業育成に取り組み、雇用の創出を生み全国的に高い成果を挙げている町で、その経緯と稼働している現

場を視察しました。



搬入された桑の葉の洗浄作業

旧桜江町は典型的な山間地で人口三千六百四人、戸数千八百九十五戸、高齢化率三七・六割と本町に類似しており、その取り組みの仕掛け人でもあった、江津市農林商工課長、釜瀬隆司氏の講話と現場を視察した。一、人口が限りなく0になるという統計上のデータと生産人口が年間四十人減少の実態を重視して、平成八年より内発型の企業育成と、雇用による定住促進を図った。

二、主産業は農業であるが、年々増加する遊休農地の対策として、町が三〇畝を借り受け、桑茶生産法人組合や企業に貸し出した。三、桑茶生産法人は年商一億七千万円、桑園一五畝、雇用三十九人の企業に育った。建設業二社も一五畝の農地を造成。ごぼうの生産加工・水稲有機栽培と農業に参入した成功事例を見聞した。



視察を終えて、農業振興策として重要なことは消費者のニーズを見極め、いかに高付加価値をつけた商品開発をするかにある。そのためにも農業の六次産業化に努め、生産から加工・販売まで参入する。

大学や研究機関の持つ最新技術による商品開発や、企業の持つ資本力による施策で、産業としての農業を育成していく。農林水産省などの情報をいち早くキャッチし、高い補助率で取り組める事業展開をしていく。そのためには、あらゆるアンテナを張り巡らし、国の情報収集や攻めの行政展開ができる人材育成をしていくことが必要であると強く感じた。

西部町村議会議員研修会

九月六日伯耆町で、研修会が開催されました。

「次世代改革で拓く鳥取新時代」と題して、平井伸治県知事の講演を聴きました。

現場主義・自立と変革を次世代改革と位置づけ、三年・五年位のスタンスでビジョンを考えていく等、県政について話された。

本町の財政再建・まちづくりの参考になりました。

あとがき

山々の紅葉の艶やかさとは逆に、秋の深まりと共に一抹の寂しさや暗い話しかかりの昨今。明るいニュースとして、黒坂出身の中川静香さんの安城世界ソフトテニス選手権大会での銅メダル。全国和牛能力共進会で、西村槐さんが優等賞四席、遠藤真由美さんが優等賞に。また、日野中吹奏楽部が日本管楽合奏コンテストで優秀賞を獲得。祝意を表し、今後のご活躍を期待します。▼歳月の経つのは早いもので、新体制になって六ヶ月が過ぎました。情報公開の一翼を担う議会だよりの編集に頭を悩ませています。町民の立場に立って、知りたいことを分かり易く、迅速にお届けしようと編集委員一同頑張っています。▼町民の皆さんの声をお聞かせ頂き、議会だよりの充実、そして住みよい町になるよう努めてまいります。(松本利秋)

議会広報調査特別委員会

委員長 佐々木周子
副委員長 松本利秋
委員 佐々木求

” ” 小谷博徳
松原直人

鳥取県町村議会 議員研修会

11月1日北栄町で研修会が開催されました。

①市町村アカデミー客員教授大塚康男氏より、「議会人の危機管理」と題して「視察の問題点」・「議員と訴訟」・「兼業の禁止」・「兼業禁止の効果」等について講演を聴き、議会人としての姿勢を再認識しました。②「これからの政局・政治展望」について、テレビ朝日ニュースキャスター・コメンテーター三反園訓氏が、政治の世界は「一寸先は闇」であると、永田町の様子を、面白おかしく話され最後に「夢」と「希望」と「やる気」を持って、頑張ることを力説されました。